

## プレスクールLikePot小郡 児童発達支援 事業所における自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令で定められた一人当たり2.47㎡を上回った活動スペースであり、機能別(学習室・訓練室・相談室など)に部屋を分け、活動を提供している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		法令で必要とされる配置数に加え、指導員を一名以上配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		玄関の入り口は階段になっているが、室内はすべてバリアフリーとなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動によって使用する部屋を変え、どこで何をするのか分かりやすい環境を作っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的なミーティングを実施し、児童に関する情報の共有、課題の抽出などその都度スタッフ間で話し合い、共有している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向け評価表を活用し、業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		会社のWeb上にて公開。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は利用者・社内の2者評価を取っている。第三者など外部評価については、今後必要に応じて実施を検討。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		採用時新人研修やOJT研修に加え、定期的な社内研修を実施している。また、参加できなかったスタッフに対しても情報共有を行っている。	

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントや、モニタリングを実施し、個別支援計画を作成している。また、その都度、保護者との話をする機会を設け、計画書に反映するようにしている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		統一したアセスメントシートを使用している。	現状あるが、より現場で活用しやすい書式を検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラムは季節や天候、長期休みにあわせ、スタッフ間で話し合い、運動や活動月案など作成を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者からも意向を聞き、固定化しないよう取り組んでいる。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		それぞれの特性を踏まえ、個別での活動や、学習課題、集団での活動を組み合わせ合わせて作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		出勤時間に差があるため、活動企画書や実行表を作成し、本日の業務内容や周知すべきことを網羅し確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		気になる利用者がいた場合はスタッフ間で情報交換や支援方法の振り返りを行っている。また、情報共有アプリを使い、支援の統一を図っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		保護者との連絡ノート、児童個々の記録の他、支援に対する記録を整備し、情報共有を図っている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施し、必要があれば計画書の更新を行い見直しを行っている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者、及び担当しているスタッフが参加している。参加する際には事前にスタッフ間での状況の再確認を行う。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、各関係機関と情報共有を行い連携を図っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			現在医療的ケアを必要とする児童がいなが、受け入れの際には体制の整備を行う。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			現在医療的ケアを必要とする児童がいなが、受け入れの際には体制の整備を行う。看護師等医療職が居ない為、病状によっては受け入れを制限することがあるが、主治医や病歴等を把握し、緊急時に連絡が取れように整備を行い受け入れをするようにしている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行支援会議になかなか参加する機会がないが、計画相談を含め、情報共有を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行支援会議になかなか参加する機会がないが、計画相談を含め、情報共有を図っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		療育機関などと連携し、本児に対する支援方法、助言など聞きながら情報共有している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	コロナ禍もあり、積極的に実施はできていない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		地域の自立支援協議会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノート、送迎時等に児童の状況や課題について情報共有を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者様からの相談に応じて情報提供を行ったり、研修などの紹介を実施している。	個人面談を行い、必要に応じて家族支援プログラムを活用し支援を行いたい。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明するとともに、事業所内にも重要書類を閲覧できるよう準備している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて、保護者と面談を行い、悩みや相談に応じている。また、事業所からのアドバイスも行っている。必要に応じて計画相談への報告を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は2回実施した。感染症の状況に合わせてオンラインとオフラインで実施している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情やご意見を伺える窓口を用意し、重要事項説明書に記載、契約時にご説明を行い、相談時には窓口、責任者、上長へ相談しながら対応し、返答するように取り組んでいる。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを出して活動報告やお知らせを行っている。また、不定期ではあるがホームページへ活動報告や、写真掲載なども行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報取り扱い同意書で同意を得て、写真の公表等に配慮している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		それぞれの特性に応じて、よりわかりやすい方法で対象児童に伝える方法など配慮を行っている。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域にかかれた事業運営を図っている		○	地域の行事に参加させてもらったり、事業所の行事を地域住民へご案内を行なっているが、今年はコロナ禍もあり実施できていない。		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時対応マニュアルを策定し、事業所に設置している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		半年に1度以上の頻度で避難訓練を行っている。近年では、水害なども増えているため、様々な災害を想定して実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		定期的に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーに関する有無の確認を行い、必要に応じて意見書、指示書をいただくようにしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が起った際には、ヒヤリハット報告書を作成・保管し職員間で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		公的機関の主催する虐待防止研修に参加し事業所内で伝達している。また外部講師を呼んで内部研修を行うようにしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束が必要な児童に対しては個別支援計画書の特記事項欄に記載するようにしているが、現在該当者がいない。	現在、身体拘束は行っていないが、今後やむを得ない場合ができた際は、適切な対応を行っていきたい。